

# 川越市教育委員会第5回臨時会会議録

- 1 会議の場所 川越市教育委員会 教育委員会室
- 2 開 会 平成27年8月5日 午後1時30分
- 3 閉 会 平成27年8月5日 午後4時50分
- 4 出席委員 梶川牧子、長谷川 均、原田由美、長井良憲、伊藤 明
- 5 欠席委員 なし
- 6 委員長の職務を行った者 委員長梶川牧子
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長横田 隆、学校教育部長小林英二、学校教育部副部長兼教育指導課長佐野 勝、学校教育部参事兼学校管理課長中野浩義、学校教育部参事兼教育センター所長小熊利明、教育総務課長川合俊也、中学校用教科用図書選定委員会委員（川越第一中学校校長鈴木 朗、野田中学校校長駒井 勇、城南中学校校長岩沢庸夫、寺尾中学校校長駒井忠幸、福原中学校校長小林一康）

## 8 前回会議録の承認

平成27年度第4回定例会会議録については、現在調整中であり、次回会議において承認することになった。

## 9 議題及び議事の概要

日程第1議案第20号 平成28年度使用中学校用教科用図書を採択することについて

副部長兼教育指導課長

義務教育諸学校の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年ごとに採択することとなっている。前回の平成23年度から4年が経過したため、今年度、平成28年度使用中学校用教科用図書を採択しようとするものである。

また、埼玉県教科用図書採択地区の変更により、昨年度から川越市は、第9採択地区となり、本市の教科用図書採択については、川越市立小・中学校用教科用図書の採択に関する規則に基づき、9教科15種目の中学校用教科用図書について教育委員会が審議し、採択しようとするものである。

今年度の採択までの概要について説明する。本年5月以降本日まで、規定に定められた教科用図書調査研究専門員会等において、見本本が送付された教科用図書について綿密な調査研究と慎重な協議検討を行った。

教科用図書調査研究専門員会は、各教科の教科用図書について、公正中立な立場から真摯に調査研究を重ね、「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告書」を作成し、教科用図書選定委員会に提出した。教科用図書選定委員会では、

本日までの間に3回の会議を開き、専門員会から提出された「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告書」とともに、学校からの意見、保護者の意見を踏まえ、「市町村の教育委員会等が教科書を採択するに当たっての採択基準」を基に本市の観点を設定して協議・検討を行った。なお、選定委員会からの推薦教科書として報告されていない教科書についても、採択の対象であり、種目ごとに審議を行い採択をお願いしたい。

委員長

審議及び採択の進め方についてお諮りしたい。

中学校用教科用図書については、これまでに各選定委員が、見本本について十分に研究されているところである。また、専門員の報告書、校長からの報告についても、全て事務局より事前に送付され、既に閲覧、研究されている。また、教科用図書選定委員会の報告書についても、事務局より届けられている。相当な量になるが、慎重に審議していくこととする。

審議及び採択の進め方については、15種目の教科書について、種目ごとに選定委員からの説明を求め、審議及び採択することとし、審議順は国語、書写、社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、数学、理科、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）、英語としてよろしいかお諮りしたい。

（全員異議なく同意）

委員長

次に、採択の方法についてお諮りしたい。

採択の方法については、無記名投票によることとし、教育委員5名の投票の結果、過半数の3票以上を獲得した教科書を採択とする形としてよろしいかお諮りしたい。

その際、票数が過半数に達しなかった場合、例えば、A者2票、B者2票、C者1票の場合は、A者とB者で再度投票を行うものとし、A者2票、B者1票、C者1票、D者1票の場合は、2票を獲得したA者を候補1として残し、1票ずつ獲得したB者、C者及びD者の3者で質疑後に再投票を行い候補2を決定し、最後に候補1と候補2で質疑後に決選投票とするように、過半数を獲得するまで投票を行う形とすることを併せてお諮りしたい。

（全員異議なく同意）

委員長

国語についての審議及び採択を行う。

選定委員

国語の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書5者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦

すべき教科書は、教育出版と光村図書の2者とした。

推薦理由としては、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、「読む」「話す・聞く」「書く」「伝統文化と言語」を「身につけたい言葉の力」として相互に関連付けながら1、2年生8つ、3年生7つの単元で構成されている。各単元の「目標と振り返り」により生徒自身が学習の達成状況を把握しやすいように工夫されている。「読むこと」の指導では学習の手引き「みちしるべ」によって「確かめよう」「深めよう」「考えよう」の学習課題を示し、問題解決の道筋に沿って学習が進められる構成となっている。古典については、視覚資料やコラム、巻末に紹介された「竹取物語」などの「別の場面を読む」により、生徒の関心を高め、主体的な学習が進む工夫がされている。巻末の「学びのチャレンジ」では、学習した内容の振り返りとともに、「挑戦しよう」では、考える力、判断する力、表現する力を高めるために、複数の教材について、発展的な学習に自分で取り組めるように設定されている。また同時に、言語活動についても充実を図れるように設定されている。

光村図書「国語」では、全学年7つの単元と文法・漢字等の資料とで構成され、関連ページを本編中に示すことで、段階的な学習を進められるように工夫されている。3年間を通じて、言葉をテーマにした教材を位置付け系統的な学習を進めることで言葉についての思考が深まるように工夫された構成となっている。「読むこと」の指導では「目標」「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の順で課題が示され、基礎的・基本的な技能の習得とともに、より課題に沿った読みが深まることに重点を置いた構成となっている。古典単元では、各学年で、「いろは歌」など音読による学習への導入により伝統的な言語文化への関心を高める工夫がされている。更に、現代語訳、脚注なども豊富で、生徒の主体的な読みや学習が進むように工夫されている。学習教材の後の「学習を振り返る」や「生活に生かす」「他教科に生かす」により学習成果の確認とともに、内容を活用する場を用意することで、言語活動がより効果的に指導できるよう工夫されている。

#### 委員

推薦した2者について、生徒に豊かな言語感覚を身に付けさせる上で、どのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

言語感覚を豊かにするための工夫として、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、学習の手引き「みちしるべ」の「言葉・表現」欄で、言葉や表現の効果、違いについて学習させるように工夫されている。光村図書「国語」では、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」欄に役立つ表現として、参考にしたい表現や感想を表す言葉を示している。

#### 委員

伝統的な言語文化の学習についてどのようなものを取り上げられているか伺いた

い。

#### 選定委員

伝統的な言葉の文化、いわゆる古典学習として、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、1年生の学習の「古典の扉を開く」として川柳を取り上げ、古典との垣根を取り崩して古典への関心を高める工夫がされている。その後、竹取物語の有名な冒頭部の学習へと進む。巻末には、小倉百人一首の全てが紹介されている。2年生の学習では、近代の短歌とともに平家物語、枕草子、徒然草などが取り上げられ、巻末には、方丈記や源氏物語も紹介されている。3年生の学習では、おくのほそ道が取り上げられている。また、和歌、短歌といった韻文では、三大和歌集、近代俳句が設定されている。

光村図書「国語」では、1年生の学習でいろは歌が導入となっている。音読を切り口とした関心を高める工夫がされていて、歴史的仮名遣いの学習の趣旨が分かりやすくなっている。その後、百人一首の紹介を通して古典における心情の情景描写について、学習の設定がされている。古典では、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」同様に竹取物語が取り上げられ、2年生の学習になると枕草子、平家物語、徒然草、更に近代から現代の短歌も取り上げられている。3年生の学習では、おくのほそ道とともに三大和歌集、近代の俳句が取り上げられている。また、巻末には、伊勢物語、土佐日記など高校以降で学習する有名な古典、文学が紹介されている。

#### 委員

推薦した2者の教科書について、付録や資料などではどのような違いがあるのか伺いたい。

#### 選定委員

教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、漢字や言葉の学習に力を入れており、教材ごとに学習の手引きで言葉や表現の効果、違いについて学習できるようにしている。巻末の付録等については、文法や漢字の学習が充実している。

光村図書「国語」では、さまざまな観点からオールラウンド的な良さがあると思われるが、教材ごとの習得や活用を位置付け、巻末にはこれらを有機的に結びつけるような資料が掲載されている。

#### 委員

生徒が主体的に学習に取り組むことが一番大事だと思っているが、推薦した2者についてどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

主体的な取組の工夫として、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、各教材の目標と振り返りを示しており、巻末にある「学びのチャレンジ」の「挑戦しよう」では発展的な学習を示して、自分で取り組めるように学習の設定がされている。

光村図書「国語」では、「学習の見通しをもとう」において1年間で習得する力

を示している。その中で学習計画を立てる、あるいは、振り返って次の学習に生かすといった1年間の学習の流れが示されている。

#### 委員

本市では、思考力・判断力・表現力の育成に力を入れているが、2者はどのような工夫を用いているか伺いたい。

#### 選定委員

思考力・判断力・表現力については、大きな課題であるが、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、学習の手引き「みちしるべ」の「確かめよう」「深めよう」あるいは、「学びのチャレンジ」を通して、より一層思考が深まるように工夫がされている。

光村図書「国語」では、「次につなげよう」において、「学習を振り返る」「生活に生かす」「他教科に生かす」を用意し、学習の振り返りと学習内容を生かす場を随所に設けているところが特徴的な工夫である。

#### 委員

読書活動の推奨について、2者はどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

読書活動の推奨として、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」では、「本の世界へ」「読書案内」のコーナーだけではなく、教材ごとに「読んでみよう」のコーナーを掲載し、紹介する本の内容や魅力についても掲載している。

光村図書「国語」では、「読書案内」のコーナーで、教材にないジャンルの本を紹介し、「読書コラム」や「広がる読書」等のコーナーにおいて各教材に関連のある本の紹介を掲載している。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、光村図書「国語」3票、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」2票、他は0票となり、国語は、光村図書「国語」を採択することとする。

#### 委員長

書写について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

書写の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書5者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、教育出版と光村図書の2者とした。

推薦理由としては、教育出版「中学書写」では、各学年の目標をとらえ、系統的に学習できる教材となっている。基本点画の復習など小学校との関連にも配慮され

ている。運筆は、薄墨と朱墨で示し、穂先が通る位置が具体的に示されている。内容について、国語の教科書教材を活用し、国語科の授業における書写の活動が明確に示されている。また、毛筆で学習する場面でも硬筆の練習を設定するなど、毛筆の運筆の学習が硬筆で書く能力の基礎となるように構成されている。1つの教材について目標に合わせた複数の手本を用意し、日常生活における「書く場面」への対応が意識されている。写真資料も豊富であり、文字の技能向上に関する資料の充実と同時に、書に関する「用具」「歴史的人物」など多角的に関心を高める工夫がされている。また、カラーユニバーサルデザインを本文に取り入れ、判読しやすい配色やレイアウトの工夫がされている。

光村図書「中学書写」では、各学年の目標をとらえ、系統的に学習できる教材となっている。運筆が分かりやすく点線で示され、穂先の向きまで生徒が理解しやすいように工夫されている。同時に楷書と行書を並べ、それぞれの特徴を具体的に示し、字形に対する理解が深まるように工夫されている。内容について、手紙、原稿用紙、願書、送り状、のし袋の書き方など、日常生活で必要に応じて文字を使いこなす具体的な場面が示されている。また、レポートやリーフレット作成など社会科、理科、総合的な学習の時間との関連を図るとともに、数字、アルファベットの書き方についても例示している。資料については、「文字の歴史」「文房四宝」の製作過程について写真を用いるなど、視覚的に分かりやすくまとめている。楷書、行書を50音順に並べ、出版物を例として紹介しながら、文字のデザイン効果を分かりやすく伝えるよう工夫されている。

#### 委員

推薦した2者においてそれぞれで際立って良い点があるか伺いたい。

#### 選定委員

教育出版「中学書写」では、学習者にねらいを意識させながら取り組ませる工夫がされている。各教材の中で「考えよう」の場面を設け、話し合ったり、課題意識をもって取り組むといった構成となっている。また、資料が各学年の随所に掲載されている。

光村図書「中学書写」では、教科書に文字のポイントを記入させたり、なぞり書きの場面を多く設けたりすることで、その教材のねらいに沿った学びの構成となっている。また3年間を通して使用できるよう巻末に資料を多く掲載している。

#### 委員

推薦した2者について、主体的に取り組むための書写の学習課程についてどのように取り扱っているか伺いたい。

#### 選定委員

教育出版「中学書写」では、学習の進め方として、1「目標」、2「試し書き」、3「考えよう」、4「生かそう」、5「振り返ろう」、6「学習や日常生活に生か

そう」という流れになっている。5「振り返ろう」の中では、学習目標と連動した複数の自己評価項目に照らし合わせながら、丸（できた）、三角（もう少し）から選んで、直接記入させるようにして主体的に取り組めるようにしている。

光村図書「中学書写」では、学習の流れとして、1「学習の見通しをもつ」で学習の目標をもち、2「学習・活動に取り組む」では、「学習の窓」といった項目等を活用して、学習活動に取り組む、3「次の学習に生かす」において、学習を振り返る、という流れになっている。「学習を振り返る」では、学習目標と連動した自己評価項目と照らし合わせながら、丸（できた）、三角（もう少し）から選び、自分で直接記入させ、主体的に取り組めるようにしている。

#### 委員

説明の中で、日常生活における各場面への対応が意識されているとのことだが、具体的に説明願いたい。

#### 選定委員

教育出版「中学書写」では、日常生活との関連ということで、写真を多く掲載し、書に関する歴史や社会で生きる文字など、日常生活との関連を視覚的に掲載している。また、歴史的な人物や建造物と文字文化との関連を示し他教科への興味や日常生活の繋がりを強く説明している。

光村図書「中学書写」では、手紙、原稿用紙、願書、送り状、のし袋の書き方などを具体的に示して、日常生活の中で学習者が必要に応じて文字を使いこなす工夫がされている。また、情報収集の整理の仕方を示し、レポートやリーフレット作成など社会科、理科、総合的な学習の時間との連携が図れている。更に数字、アルファベットの書き方についても例示している。

#### 委員

推薦した2者について、行書に関する初めの教材の取り扱いには、どのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

行書については、教育出版「中学書写」では、1「行書学習のはじめに」において、行書の説明を掲載し、2「楷書と行書の違い」において、「和」を題字に楷書と行書の違いを考えるように示し、3「行書の筆使い」において、行書の筆の動きを確かめて、「大」の文字を書き、行書の筆使いを実際に体験してみる。4「点画の連続と変化」において、「大木」を題字に、点画の連続と形の変化を理解して書く。このように段階を踏んだ取り扱いになっている。いずれも題字ごとに筆順や穂先の動きを濃淡のある朱墨で表示され、筆脈が分かりやすく示されているなど工夫されている。

光村図書「中学書写」では、1「文字の歴史を探る」において、文字の歴史を年表を用い、行書の生い立ちを知ることができる。2「行書の特徴」において「緑」

を題字に楷書と行書を大きく表示し、2つの違いを見分けるなどの学習が用意されている。3「緑」の題字を指でなぞり、筆使いの違いを感じ取る活動を行う。4「緑」の題字を用い行書の特徴を理解する。5基本である漢数字の「一」の横画を書き、筆使いの違いを確かめる工夫がされている。6「点画の方向や形の変化」において、題字「木立」を行書で書き、7最後に学習したことを硬筆を用いて、文字を意識しながらなぞる学習がある。特に点画の種類や筆使いを丁寧に学ぶことができる工夫が見られる。

#### 委員

書写は、一次的な目的としては、基本的な知識・技能を習得することになると思うが、日本の歴史的文化や芸術を学ぶ上で、最も大切な教科だと思っている。それについて、それぞれどんな工夫又は違いがあるか。

#### 選定委員

教育出版「中学書写」では、写真資料が豊富であり、歴史的人物あるいは用具に関してのさまざまな資料等が写真や成り立ち等について説明されている。いわゆる書の技能とは別に、書に関する関心や意欲を歴史的背景に基づいて学習できるように工夫されている。

光村図書「中学書写」では、普段生徒が使用している文房具や用具についての製作過程の写真で詳しく示すことで、生徒が使う道具に関心をもつような工夫がある。また、その字の成り立ちについて歴史を通して学べるように工夫されている。いずれの教科書も歴史について、あるいは伝統文化について学ぶことができるよう工夫されている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、教育出版「中学書写」5票、他は0票となり、書写は、教育出版「中学書写」を採択することとする。

#### 委員長

社会（地理的分野）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

社会（地理的分野）の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書4者、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と帝国書院の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい社会 地理」では、見開きのはじめに学習課題を設け、本文と資料によって基礎的・基本的な知識を習得できる構成になっている。「地理にアクセス」や「調査の達人」等を随所に設け、話題になって



いる地理的事象や調査を進める上での技能等を示し、地理的な見方や考え方を育成するよう工夫されている。見開き終わりの「確認」欄で、短時間で言語活動に取り組むとともに、世界の各州や日本の各地方の学習の最後にまとめの言語活動を設け、思考、判断した内容を自分の言葉で説明し、表現力が身に付くように工夫されている。見開きの「えんぴつマーク」欄で主体的な学習を促し、「深めよう」や「学習をふり返ろう」では環境問題や多文化社会、人口問題等を話し合い、更に深く単元の課題を追究し、地理的な事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断することができるようにしている。挿絵や地域の人物の発言が随所に挿入され、各地域の生活に対する地理的認識を発見でき、生活する人々の実態や土地への対応や思いを感じることができるような工夫がされている。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」では、見開きのはじめに、「学習課題」が明示されており、考える視点を明らかにしながら、写真、グラフ、地図等を使用して考え、最後の「確認しよう」「説明しよう」欄で知識を習得、活用させ言語表現するようになってきている。更に基礎的・基本的な知識を深めるために、本文の左右に「解説」のコーナーを配置し、地理を学習する上で大切な用語を分かりやすく説明している。各章や各節の終わりの「学習をふりかえろう」では、設定されたテーマを自分の言葉で説明することで言語活動を促進し、思考力・判断力・表現力を育成するように工夫されている。また、発展学習のコーナーの「トライアル地理」や「地域を探ろう」では、身に付いた地理の知識や技能を使って、更に深く、主体的に課題に取り組むことができるようになってきている。写真や地図等に対する挿絵の人物の問いかけや各地域に生活する人のインタビュー「声」から、その土地に暮らす人々の思いや地域の特色がとらえられるよう工夫されている。

#### 委員

推薦した2者について、北方領土や竹島、尖閣諸島などの領土問題についての扱いはどのようなになっているか伺いたい。

#### 選定委員

領土問題については、2者とも非常に多くのページを使用し掲載している。東京書籍「新編 新しい社会 地理」では、領土をめぐる問題ということで、本文の中やポエムのコーナー等で取り扱っている。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」では、本文の内容あるいは写真、地図等含めたさまざまな資料を用いて詳しく説明している。

#### 委員

文章量的なものについては、2者とも大差はないということによろしいか伺いたい。

#### 選定委員

そのとおりである。

委員

地理と歴史は、学習において切り離せないとのことだが、地理と歴史の教科書会社は、同じほうがよいのか伺いたい。

選定委員

学習の中のさまざまな指示や資料の関連性等を含めると同じ教科書会社の教科書を用いたほうが、学習しやすいことは確かである。

委員

推薦した2者について、現代社会の問題は、どのように取り扱っているか伺いたい。

選定委員

防災、安全、エネルギー問題、人口集中、過疎、その他の対策について現代の諸地域を取り巻く、動向や課題の取組について2者とも取り扱っている。

委員

エネルギー問題において、原子力発電所の取り扱いは全ての教科書においてどのように取り扱っているか伺いたい。

選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 地理」では、「日本の資源、エネルギー環境問題」の欄外で、東日本大震災での原子力発電所の事故を受けて、という記述で東日本大震災と関連付けて記載している。また、同節の「深めよう」で、「さまざまな発電方法の特徴と課題」として、本文の約4分の1の文章量で、原子力発電所の記事等を掲載している。

教育出版「中学社会 地理 地域にまなぶ」では、特設ページ「地域から世界を考えよう」で、「原子力発電と環境問題」をテーマに取り上げ、ヨーロッパの原子力発電所を1ページにわたって例に挙げている。更に資源・エネルギーの偏る分布では、東日本大震災での原子力発電所の事故に関連させ、関心を高める目的で掲載している。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」では、「日本の資源、エネルギーと電力」で、本文の約3分の1の分量で、原子力発電の利用が見直されているとの記述がされている。また、「おもな発電所の分布」として日本地図に分布が掲載されている。

日本文教出版「中学社会 地理的分野」では、「世界と日本の資源・エネルギー」において、日本は原子力発電を推進してきたが、東日本大震災を受けてエネルギーに対する人々の考え方が変わってきたことについて記載している。

委員

埼玉県や川越に関連する資料はどのようなものがあるか。

選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 地理」では教科書中に6箇所、埼玉県に関わる記載や資料がある。川越についての記載は、「日本の工業」において、内陸型の工業地域の写真が掲載されている。

帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」では、埼玉県関連の記載等は教科書中に5箇所ある。川越についての記載はない。

#### 委員

学校基本法や学校教育法にある「伝統と文化を尊重する態度を養う」ことについて、どのような工夫が見られるか伺いたい。

#### 選定委員

2者とも、地域社会の形成に参画して、その発展に努力しようとする態度が養われるように工夫されている。また、世界各地の生活や宗教の関わりや分布について学習できるようになっている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい社会 地理」3票、帝国書院「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」2票、他は0票となり、社会（地理的分野）は、東京書籍「新編 新しい社会 地理」を採択することとする。

#### 委員長

社会（歴史的分野）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

社会（歴史的分野）の教科用図書調査研究専門員会において、教科書発行者から見本本の提供があった全ての教科書7者、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社について、調査研究を行った。教科書目録に掲載されている学び舎は、埼玉県教育委員会の調査資料を参考とした。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と帝国書院の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」では、見開きを1単位時間として導入部分の絵、写真、学習課題、本文、資料、まとめにあたる「確認」で構成され、章ごとに学習した概念を確認するために設置されている「この時代の学習を確認しよう」や「歴史スキルアップ」によって、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くよう工夫されている。学習課題に対応し振り返りを行う「確認」欄や章末ごとに設けられている「この時代の特色をとらえよう」のページでは、「ウェビング」「比較表」「ディスカッション」などにより、生徒が多様な言語活動を行い時代の特色をとらえ、思考力・判断力・表現力を育成する工夫がされている。見開きごとにページの下に設置されている世紀と時代のスケールには、現在学

んでいる時代が「この見開きの時代」として矢印で示され、どの時期を学習しているのか理解しやすい工夫がされている。各章のまとめと次の章の導入部分が年表で接続されていて、歴史の流れが把握しやすく、更に章の導入に小学校の学習を振り返るプロセスが設けられ、小学校との学習の系統性が図られている。

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」では、見開き2ページは、導入部分の絵や写真、学習課題、本文、まとめにあたる「確認しよう」

「説明しよう」で構成されている。本文の内容や語句をより理解しやすくするために図や写真を添えた「解説」が配置されており、学習しやすいだけでなく視覚的にも理解が深まるよう工夫されている。見開きの終わりの「確認しよう」「説明しよう」や各部の終わりの「学習をふりかえろう」、更に資料を基に解明されていない歴史事象について考察する「トライアル歴史」では、生徒が言語活動を深め、思考力・判断力・表現力を育成する工夫がされている。各時代の導入に大きな絵で構成された「タイムトラベル」のページを設け、前の時代との比較や疑問点を発見させ、これから学習する時代が、どのような時代であるかをとらえることができるようになっている。更に小学校で学んだ主な出来事が年表と人物画で掲載されており、小学校との学習の系統性が図られている。

委員

推薦した2者について、国旗及び国歌についてどのように扱われているか伺いたい。

選定委員

国旗、国歌そのものについて、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」では、特に記載はない。

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」では、「第6章 アジアの強国の光と影」の欄外に、「国旗と国歌」と題し、日本の日の丸は外国船と区別するために、幕末から頻繁に用いられるようになった。また、君が代についても説明の記載がある。

委員

推薦した2者の中で、地域あるいは郷土の歴史を調べてみようといった取組のある教科書はあるか。

選定委員

地域や身近な歴史については、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」では、「私たち歴史探検隊」の中で、自分の郷土、街の歴史を考えるとといった特集が掲載されている。

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」では、そういった記述は見受けられない。

委員

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」では、「第1部 第2章 歴史の調べ方 まとめ・発表の仕方」の内容がそうだと思うがいかがか。

選定委員

そのとおりである。

委員

領土問題の記述について、全ての教科書でどのように取り上げているか簡潔に伺いたい。

選定委員

それぞれ、北方領土、竹島あるいは尖閣諸島の問題を1回から3回掲載し、教科書によっては4箇所の記事がある。いずれも、本文中あるいはコラム等で取り上げている。また、写真や地図等を掲載している教科書もある。

委員

全ての教科書で取り扱っているということによろしいか伺いたい。

選定委員

そのとおりである。ただし、竹島と尖閣諸島の問題については、学び舎「ともに学ぶ人間の歴史」では取り挙げていない。

委員

前回の改訂では、社会（歴史的分野）の学習時間が増え、近現代の歴史が近代と現代に分かれたが、今回の教科書では、ページの割合がどうなっているか伺いたい。

選定委員

前回の改訂で、社会（歴史的分野）の学習時間が後半において増え、近現代の学習が近代と現代の2つに分かれたが、今回の改訂では、8者全ての教科書における近現代のページ数の割合は、教科書全体のページに対して、50.7%であり、前回改訂の45%に比べて、5%の増となっている。

委員

推薦した2者について、埼玉県や川越の記述はどうなっているか伺いたい。

選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 歴史」では、6箇所、埼玉県関連の記事がされている。その中で藩校については、川越にあった長善館が地図に掲載されている。

帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」では、埼玉県の記述は7箇所あり、川越の関連では、喜多院所蔵の「職人尽絵」という職人の絵が掲載されている。

(教育委員による投票)

委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」3票、教育出版「中学社会 歴史 未来をひらく」1票、帝国書院「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界

の動き」1票、他は0票となり、社会（歴史的分野）は、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」を採択することとする。

#### 委員長

社会（公民的分野）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

社会（公民的分野）の教科用図書調査研究専門員会に、教科書目録に掲載された全ての教科書7者、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と日本文教出版の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、見開きのはじめに学習課題を示し、最後の「確認」では、知識の習得や学習内容を深める課題が設定されている。更に章末の「この章の学習を確認しよう」で重要語句の確認や書き込み作業を取り入れ、必要な知識の定着を図るなど、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。見開きにも「えんぴつマーク」を各箇所挿入し、短時間で取り組める言語活動を設けるとともに、章末や章のはじめに「X市の市長選に立候補しよう」等シミュレーションを取り入れた学習を行い、更に模擬裁判などを実施する「公民にチャレンジ」を設け、多面的・多角的な見方を養い、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫が随所にされている。「深めよう」が章ごとに配置され、学習を更に掘り下げ、発展させるよう工夫している。中学生が社会参画している写真や地域で活動している写真、話題など地域の課題解決や持続可能な社会の実現について考える活動を掲載し、社会への関心や社会参画していく意識と態度を養うような工夫がされている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、見開きのはじめに「学習課題」が明示され、最後の「学習の確認と活用」で学習した知識の定着や技能の活用を確認できるようになっている。また、「情報スキルアップ」で取り組みやすい作業を交え、情報の集め方、読み取り方、伝え方、活用の仕方などの基本的な技能の育成を図るなど基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための工夫がされている。

「読み取ろう」「考えよう」「伝えよう」という「言語活動コーナー」を随所に設置し、知識を活用させて言語活動の充実を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高める工夫をしている。各章に設置されている「明日に向かって」のコーナーでは、生徒が将来に生かせる教材を取り上げ、多面的・多角的に思考し、持続的な社会を築くために、主体的に現代社会に参画する意欲を養うようにしている。学習箇所の位置を確かめながら学習できる「インデックス」が付してあり、また、ページ下に連携コーナーを設け、地理、歴史、小学校で学習したことについての関連を分

かりやすく示してある。

#### 委員

推薦した2者について、東日本大震災についてどのように取り扱っているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、「持続可能な社会に向けて」の单元において、見開き1ページに震災の説明、避難の様子、がれき片付けの写真や東日本大震災を報じる新聞の記事などが掲載されている。「深めよう」では、復興への願いと伝統芸能について見開き1ページに解説や写真が掲載されている。更に復興と防災をテーマとし、仙台市を例に復興と防災について解説がされている。また、「公民にアクセス」では、在日アメリカ軍による被災地での救助活動の写真を掲載している。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、「公民ズームイン」において、大災害と持続可能な社会として1ページの掲載がある。写真についても、津波の被害、ボランティア活動、校外学習用に使われていたバスをおくる、外国からの救援隊、防護服を着て一時帰宅する人の5枚が掲載されている。

#### 委員

先ほどの震災に関連して、原子力発電に関する取り扱いは、どうなっているか伺いたい。

#### 選定委員

原子力発電（原発）については、東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、「深めよう」コーナーの「日本のエネルギー政策のこれから」の中で、見開きで扱っている。このページには、原発事故の影響についての解説や、福島復興についての写真などが掲載されている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、「資源・エネルギー問題」の单元において、原発事故の記述が見開き1ページの本文中に4分の1程度の記述がされている。併せて、福島第一原子力発電所の事故の新聞記事が1枚掲載されている。

#### 委員

推薦した2者について、小中学校の学習の連携という視点で見た場合に、小学校の社会科の内容に関連付ける工夫があれば伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、教科書の導入や各単元の学習の始めに、小学校社会科の学習事項や教科書に記載された写真を位置付けることで、小学校と中学校の学習の強い結び付きができるような工夫がされている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、「連携コーナー」が本文左ページの脚注に設けられ、地理・歴史分野あるいは、小学校の学習の单元が示してある。

## 委員

社会科は地図を含めると4つに分かれるが、社会的学習の上で、歴史的分野や地理的分野との関連を推薦した2者について伺いたい。

### 選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、「分野関連マーク」が記してあり、地理や歴史で学んだことを確認したり、意識しながら学習できるようになっている。また、教科書導入や単元の始めに小学校での学習や地理・歴史を関連付ける写真が位置付けられている。このように、3分野の結び付きが強い教科書となっている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、巻頭の「公民との出会い」に地理、歴史、公民との関連について説明されている。また、「公民タイムトラベル」において、現代の政治、経済に影響を及ぼす歴史的事象を紹介している。更に「連携コーナー」がページの下側に設けてあり、地理、歴史との関連を示している。

## 委員

現代の社会問題について、どのような問題を取り扱っているか、推薦した2者について伺いたい。

### 選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 公民」では、具体的に説明すると、例として、「対立と合意」「効率と公正」の学習を取り上げると、生徒たちが具体的に話し合いができるようにマンションの管理組合における駐輪場の利用規制の事例や部活動のグラウンドの割り振りの事例などが取り上げられている。

日本文教出版「中学社会 公民的分野」では、同様の学習において、合唱コンクールの練習場所の割り振り事例やお店のレジでの並び方、分け方の事例を取り上げている。

(教育委員による投票)

### 委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい社会 公民」3票、日本文教出版「中学社会 公民的分野」2票、他は0票となり、社会（公民的分野）は、東京書籍「新編 新しい社会 公民」を採択することとする。

### 委員長

地図について審議及び採択を行う。

### 選定委員

地図の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書2者、東京書籍、帝国書院について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と帝国書院の2者とした。



推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい社会 地図」では、巻頭で地図帳の活用方法を丁寧に説明し、地図の基本的な使い方が理解できるよう工夫している。各州、地方ごとに「テーマ資料」のページを設け、各地域の特色を学習テーマに基づいて追究できるように構成されている。関連する資料が他のページにある場合、「ジャンプ」マークにより、そのページを簡単に参照でき、同じテーマについて、他の州や他の地方と比較して考察することで地理的な見方や考え方の基礎が培えるよう工夫がされている。基本図に「注目したい記号」を示し、地域の地理的特色を考察させ、各地域の特色や課題等を把握させ、地理的特色をとらえる視点や工夫が身に付くようにしている。また、環境問題やエネルギー問題を集集したり、各国の生活や文化、宗教など国際理解に関わる資料図を掲載し、地理的認識や今日的な考察を深める工夫がされている。環地中海の一般図、江戸時代の大阪の詳細図、環境問題等の資料を掲載し、歴史・公民的分野との関連付けを図っている。

帝国書院「中学校社会科地図」では、巻頭の「この地図の使い方・地図の構成」と「地域の特色をとらえるポイント」で読図の視点や地理的特色の追究方法を示し、読図の技能が身に付くよう工夫されている。世界各州の資料のページに「日本との結びつき」の資料を必ず取り上げ、世界の諸地域を日本との関係からとらえられるように構成されている。更に「地図を見る目」というコーナーを随所に設け、地理的な見方や考え方の基礎が身に付くように工夫されている。地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」のコーナーを随所に設け、生徒が自ら社会的諸課題について考えたり、話し合ったりすることができるよう工夫がされている。更に環境問題や災害問題を集集したり、各州・地方毎に環境問題や防災・災害に係る資料図を掲載するなど、地理的認識や今日的な課題の考察を深める工夫がされている。江戸時代の東京の地図や鳥瞰図「本州中央部」に江戸時代の五街道とその全宿場を掲載したり、国際機関への参加国を示したりして、歴史・公民的分野との関連を図っている。

#### 委員

2者について、どちらの地図がより見やすいと思うか。また、見やすさという点でどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

同じ項目のページを比べてみると、見やすさという点では、色の違いがはっきりしている帝国書院「中学校社会科地図」の方が、生徒には見やすいと考える。

#### 委員

2者について、領土問題についてはどのように取り扱っているか伺いたい。

#### 選定委員

どちらの地図も北方領土、竹島、尖閣諸島については、かなりの分量で扱っている。2者とも、写真や解説が掲載されている。

## 委員

2者について、地図の色彩や等高線にどのような工夫が見られるか伺いたい。

### 選定委員

東京書籍「新編 新しい社会 地図」では、地域のくらしや産業を色によって読み取れる「土地利用表現」と土地の高低が分かるような表現方法を採用している。陸地の高さを世界地図では7色、日本地図では10色で表記している。

帝国書院「中学校社会科地図」でも、同じように地域や産業などを色によって読み取れる「土地利用表現」や土地の高低が分かる表現方法を用いている。陸地の高さを世界地図では6色、日本地図では3色から4色で表現し、色の境目が等高線になっている。

## 委員

本市は歴史と伝統の街であり、子どもたちは、それらを守っていかなければならない立場にあるが、「伝統と文化を尊重する態度を養う」ための工夫があるか伺いたい。

### 選定委員

どちらの地図においても、歴史的な地名や建物、建造物が記載され、生徒が自主的に調べることによって興味を示したり、歴史的分野に目を向けさせたりできる。

## 委員

生徒が自主的に調べるといった回答があったが、生徒が自ら学習したり、調べたりするのに主体的に学習を促すような内容や掲載は何かあるか伺いたい。

### 選定委員

帝国書院「中学校社会科地図」には、より主体的に学習を促す項目が多く記されている。具体的には、「やってみよう」や「地図をみる目」等で主体的な学習が促せるように工夫がされている。合計77ページ程度で表記されている。

(教育委員による投票)

### 委員長

開票の結果、帝国書院「中学校社会科地図」5票、東京書籍「新編 新しい社会 地図」0票となり、地図は、帝国書院「中学校社会科地図」を採択することとする。

## 委員長

数学について審議及び採択を行う。

### 選定委員

数学の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書7者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、数研出版、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と啓林館の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい数学」では、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、細かく段階を追っている部分と理解を深める部分が分かりやすく配列され、個に応じて主体的に学習に取り組めるようになっている。各章の導入課題では、操作活動を取り入れ、数学的活動の有用性が示されていて、新たな学習への意欲を高めるような課題が用意されている。学習のまとまりごとに学習課題が明示され、見通しをもって取り組むことができる。また、数学トピックスとしての「数学の窓」、数学を活用させる「社会とつながる」などが示され、主体的な学習が展開されるように構成されている。更に「学び合い」のページでは、多様な考えを引き出すために右ページ始まりとし、自力解決の際に、例が見えないように工夫がされている。更に数学的な思考力・表現力を高めるために「学び合い」のページの活動を振り返ってまとめたノート例「数学マイノート」が設けられ、話し合いの仕方、多様な考えのまとめ方や自らの考えとの比較の仕方が示されている。

啓林館「未来へひろがる数学」では、本文中に「ふりかえり」のマークが示され既習事項の確認ができ、章末の「基本の確かめ」や巻末の「くり返し練習」では本文参照ページが示され基礎的・基本的な内容を反復して学習し定着を図るようになっている。巻頭「学習の進め方」では、学習する手立てやノートの書き方が示されている。「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」など数学的活動の場面が設定され、考えをまとめたり、表現したりする活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成するよう工夫されている。また、論理的に考えるための「千思万考」、数学を深めるための「数学展望台」、更に日常生活との関連付けを図るための別冊「Math Naviブック」が教科書に挟み込まれ、興味・関心を高め、主体的に学習を広げていく構成になっている。別冊では例えば、小中の連携を意識した課題や、学んだ数学を進んで活用する課題など、数学の有用性に着目した題材を取り上げている。

#### 委員

推薦した2者について、小学校から中学校に進学すると、数学でつまづく生徒が出てくると聞くと、小中の学習を円滑に進めていくためにどのような配慮がされているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい数学」では、「ちょっと確認」「算数のふりかえり」「学びをつなげる」等で小学校の算数や学年間の学習内容の連携を図っている。

啓林館「未来へひろがる数学」では、別冊「Math Naviブック」で各章の学習と関連のある内容や活用した場面の問題を取り上げている。小学校や前学年の内容も扱っている。

#### 委員

別冊「Math Naviブック」は、1年生だけでなく2年生、3年生にも付

いているのか。

選定委員

全ての学年に付いている。

委員

前学年の冊子を用いて学習を振り返るということによろしいか。

選定委員

そのとおりである。

委員

啓林館の別冊「Math Naviブック」について説明があったが、東京書籍の「数学マイノート」とは、どういったものか伺いたい。

選定委員

東京書籍の「数学マイノート」とは、「学び合い」に対応したノートの記述例を記しているもので、板書を書き写すだけではなく、思考の過程や人の考えをノートに書く習慣を身に付け、数学的な思考力・判断力を高めることができるよう工夫されている。

委員

推薦した2者について、数学は、基礎的・基本的なことが大事だと思うが、それについての学習内容の定着、習得させるための工夫を伺いたい。

選定委員

東京書籍「新編 新しい数学」では、「例」と「問」の間に「たしかめ」が設けられている。また、「まちがい例」では、同じ間違いを繰り返さないように説明されている。「ちょっと確認」や巻末の「学びをつなげる」では、復習事項が示され、巻末の章末問題では、本文参照のページや例などが示され、繰り返し学習できるように設定されている。更に巻末補充の問題では、反復練習として利用できるように構成されている。

啓林館「未来へひろがる数学」では、別冊「Math Naviブック」の「学びをつなげよう」や本文中にある「ふりかえり」マークで、学習内容に関連する既習事項が取り上げられ、復習や学び直しができるように構成されている。章末にある「基本のたしかめ」や巻末にある「くり返し練習」では、本文参照ページや「問」などを示して振り返り、学習できるように設定され、節末にある練習問題は、反復して練習できるように構成されている。

委員

家庭学習の充実や、家庭との連携についてどのような配慮がされているか伺いたい。

選定委員

家庭学習というと主体的な学習になると思うが、東京書籍「新編 新しい数学」

では、全節の導入に新たな学習の意欲を高めるような、「Q」が設定されている。その活動が次の学習に繋がるように構成されており、家庭学習において、見開きですぐに答えが見えてしまうことのないようにレイアウトされている。

啓林館「未来へひろがる数学」では、別冊「Math Naviブック」で日常生活に活用したり、考えたり、判断したりできる課題の設定、環境、気温の上昇など、取り組みやすい例が用意され、学習を促すような工夫がされている。

(教育委員による投票)

委員長

開票の結果、啓林館「未来へひろがる数学」3票、東京書籍「新編 新しい数学」2票、他は0票となり、数学は、啓林館「未来へひろがる数学」を採択することとする。

委員長

理科について審議及び採択を行う。

選定委員

理科の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書5者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と学校図書の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい科学」では、観察・実験について、目的を明確化し、方法、結果、考察などの探究の過程を分かりやすく示し、主体的な取組を促すように配列され、「予想しよう」「考えよう」などの思考力・表現力を育成する場面を設け、科学的な見方や考え方を育成できるように構成されている。学力の向上では、例題・練習・確認というスモールステップの練習問題を設定し、つまづきを解消し、定着度を向上させる工夫がされている。安全面の配慮では、注意事項をマークによって区別し、注意内容を分かりやすく示している。インパクトがあり、資料性の高い写真等を多く掲載し、身近な事物や現象から、自然の不思議さや科学の楽しさを伝える工夫がされている。「ニッポンの科学」「科学でGO」では、日本が世界に誇る最先端の科学技術や国際貢献、実生活との関連を紹介し、理科を学ぶ有用性を実感できる工夫がされている。単元配列は、指導時期や系統性を踏まえた配列である。

学校図書「中学校科学」では、観察・実験について、課題、準備、結果、考察等の探究の過程では視点を示して考えさせ、「話し合ってみよう」を設けることで、科学的な思考力・表現力を育てる工夫があり、科学的な見方や考え方を育成できるように構成されている。学力の向上では、活用・表現マークを付けた「問い」、解き方の説明を加えた例題を設け、活用力を育て、学力を向上させる工夫がされてい

る。安全面の配慮では、注意事項を赤抜きの黄色文字で示し、危険防止について分かりやすく表示している。多彩な写真やイラストなどを掲載し、日常生活との関連、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫がされている。「科学の窓」では、学習内容と関連した現象や発明、科学の歴史を説明し、「科学を仕事に活かす」では、科学と職業との関連を紹介し、学習意欲や興味・関心を高める工夫がされている。単元の配列は、前半に1分野、後半に2分野の配列である。

#### 委員

小学校から中学校に進学するにあたり、理科の学習が円滑に接続されることが大切だと考えるが、それに関して、推薦した2者にはどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

2者の教科書とも、単元の始めに小学校で学んだこと、これまでに学んだことなどを示し、既習事項を確認し学習に入れるように工夫がされている。具体的には、中学1年の植物の学習では、東京書籍「新編 新しい科学」では、小学5年生の学習内容を示している。

学校図書「中学校科学」では、小学5・6年生の学習内容を示し、既習事項の復習を行い、小学校との学習内容を明確にし学習を進めるような配慮がされている。

#### 委員

推薦した2者について、教科書によって観察・実験の方法に違いがあるか、実験の技能を高めるためにどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

2者とも教科書に掲載されている観察・実験については、共通する部分が多いが、一部において違いがある。具体的には、「イオンの移動」の実験において、東京書籍「新編 新しい科学」では、ストローと寒天を使用して実験しているが、他の教科書では、ろ紙とリトマス紙を主に使用している。ただし、別の方法として、ろ紙とリトマス紙を使用した方法も紹介している。

実験・観察の技能を高める工夫としては、2者とも目的を明確にし、実験・観察の方法について手順を追って示し、結果や考察の視点を示すといった、科学的に解決する能力・技能を高める工夫がされている。

#### 委員

推薦した2者について、実験などにおいて事故防止や安全面への配慮について伺いたい。

#### 選定委員

2者とも安全に観察・実験を行うための注意事項を「注意」等で示している。具体的には、東京書籍「新編 新しい科学」では、注意すべき項目についてマークで示し、赤字で注意を促している。

学校図書「中学校科学」では、目立つ工夫として赤の背景に黄色の文字で注意を促している。

#### 委員

推薦した2者について、思考力・判断力・表現力を育成するための工夫として、どのようなものがあるか、説明の中にも若干触れていたが改めて伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい科学」では、観察・実験の流れの中で言語活動の場面を設定し、科学的な思考力・表現力が育成されるよう工夫がされている。特に思考力・表現力を育成する場面では、「くらべよう」「予想しよう」「推測しよう」などにおいて、活動のねらいが分かるように表示されている。

学校図書「中学校科学」では、課題をクエスチョンマークの記号で統一して示し、結果・考察の視点を示し目的意識をもち、筋道を立てながら結果を導き出すことで、思考力・判断力・表現力を育成する工夫がされている。また、「話し合ってみよう」の課題において生徒に考えさせ、更に活用・表現方法を学習することで、思考力・表現力の育成が期待できると考える。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい科学」3票、啓林館「未来へひろがるサイエンス」2票、他は0票となり、理科は、東京書籍「新編 新しい科学」を採択することとする。

#### 委員長

音楽（一般）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

音楽（一般）の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書2者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、教育出版と教育芸術社の2者とした。

推薦理由としては、教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるために、基礎・広がり・活用の「3つの柱」を設定し、系統的・発展的な学習ができるように題材が配列されている。また、各学習目標も3つの柱に分類するとともに、教材ごとに「共通事項」を示し、系統的、発展的に学習する構成となっている。具体的な学習の場面では、各学年に「指揮をしてみよう」を設け、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるよう工夫されている。また、新出の記号や確認したい用語などの表記を工夫し、学習しやすくするとともに、変声と混声

合唱において基本を押さえて学習できるよう、楽譜やイラストを使って説明している。歌唱教材「歌のアルバム」では、さまざまな難易度の合唱曲が掲載されている。我が国の伝統的な音楽については、伝統的な歌唱や和楽器に取り組む教材を扱っている。

教育芸術社「中学生の音楽」では、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるために、豊かな表現・鑑賞活動の基となる「知覚・感受」「思考・判断」にかかる題材を系統的・発展的に配置するとともに、「音楽MAP」で示している。また、音符、休符、記号等の「共通事項」を繰り返し確認するとともに、基礎的な技能の習得を発達段階に応じて習得できるように工夫されている。具体的な学習の場面では、曲の構成やパートの役割について、「共通事項」と関連させながら思考・判断する場面を設け、表現方法を工夫する構成になっている。また、「歌い継ごう日本の歌」など、写真や縦書きの歌詞、作詞者や作曲者の言葉を掲載するとともに、「心通う合唱」として、発達の段階に応じて生徒が慣れ親しんださまざまな合唱曲が掲載されている。我が国の伝統的な音楽については、民謡、長唄、能が系統的・発展的に取り上げられ、各学年とも表現と鑑賞の一体化が図られた教材が選択されている。

#### 委員

音楽に対する感性を育てるための工夫を伺いたい。

#### 選定委員

教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、基礎・広がり・活用の「3つの柱」を設定し、系統的・発展的な学習を進めている。

教育芸術社「中学生の音楽」では、「知覚・感受」「思考・判断」を系統的に配置し、それぞれの関連性を考慮した教材と解説を示すことで系統的に進めている。

また、それぞれの特色として、教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、「Let's Sing」において、指揮をしてみようといった習得の場面が用意されていたり、「A Message for You」において、歌唱教材における作詞者、作曲者自身の思いや意図が紹介されているといった工夫がされている。

教育芸術社「中学生の音楽」では、「音楽MAP」の「学習の窓口」において、共通事項との関連を明確にすることで学習を進めるように配慮されている。また、「マイ ヴォイス」「グレードアップ」等、発達段階に応じたコーナーを設けることで、より一層感性が育まれるような工夫がされている。

#### 委員

我が国の伝統的な音楽や音楽文化について2者の教科書の違いを伺いたい。

#### 選定委員

2者とも、我が国の伝統的な音楽や音楽文化についての記述、配慮がされている。具体的には、教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、わらべ歌、郷土の音楽、



世界のさまざまな音楽、あるいは、「Let's Try」において、琴の演奏、尺八の楽器の演奏などが示されている。

教育芸術社「中学生の音楽」では、「心の歌」と称して、我が国の音楽文化などについて説明や情景写真などが用意され、視的好奇心や感受性をより一層働かせて歌うことができるように配慮されている。また、「歌い継ごう日本の歌」も取り入れられ、それを基に全校合唱できるような工夫がされている。更に日本全国の図の中で民謡や郷土の芸能などが示され、より一層関心を高めるような工夫がされている。

(教育委員による投票)

委員長

開票の結果、教育芸術社「中学生の音楽」4票、教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」1票となり、音楽（一般）は、教育芸術社「中学生の音楽」を採択することとする。

委員長

音楽（器楽合奏）について審議及び採択を行う。

選定委員

音楽（器楽合奏）の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書2者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、教育出版と教育芸術社の2者とした。

推薦理由としては、教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」では、多様な音楽に興味・関心をもたせるための教材を示し、個々に応じた発展的な学習を進め、音楽を愛好する心情を育てられるように構成されている。具体的な学習の場面では、楽曲ごとに演奏におけるポイントやアドバイスが示され、段階的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、各学習の目標が示されるとともに、課題や目標を意識しながら学習を進めたり、身に付けた基礎的な奏法を生かしてさまざまな形態のアンサンブルができたりするよう、めあてを設けている。更に楽器の奏法を分かりやすく理解させるため、さまざまな角度からの写真を掲載している。我が国の伝統的な音楽については、和楽器の歴史や仕組み、姿勢、構え方など基本的な奏法を写真で具体的に解説しており、重奏、合奏曲も取り上げ、無理なく和楽器の演奏に親しむ工夫がされている。

教育芸術社「中学生の器楽」では、音楽を愛好する心情を育成し、基礎的な能力を定着させるために必要な資料を題材ごとに具体的に示す構成となっている。また、「音楽MAP」によって系統的、発展的な学習の流れを示すとともに、「共通事項」を基に学習内容を簡潔に示し、学習内容を明確にしている。具体的な学習の場

面では、扱う楽器ごとに、楽曲の難易度が上がるように配列が工夫されている。また、身に付けた基礎的な奏法を生かして、さまざまな独奏やアンサンブルの曲が掲載され、「共通事項」と関連させて編集されている。更に各楽器の構造や各部分の名称が大小の写真を用いて説明されており、姿勢や奏法は多角的に見比べられるように工夫されている。我が国の伝統的な音楽については、和楽器の特徴、音色や奏法を具体的に解説し、「楽器を知ろう」「和楽器こぼれ話」により和楽器への理解や関心を深められるよう工夫されている。

#### 委員

音楽（一般）との違いについて、例えば、我が国の伝統的な音楽について双方の教科書に掲載があるが、内容にどのような違いがあるか伺いたい。

#### 選定委員

先程の音楽（一般）の説明で、教育出版「中学音楽 音楽のおくりもの」では、わらべ歌、郷土の音楽、世界のさまざまな音楽、あるいは日本の伝統音楽等の鑑賞と表現ができるといった説明をしたが、教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」では、大きく3つのまとまりで編集したさまざまな音楽文化ということで示し、我が国の伝統音楽や郷土の民謡、芸能について取り扱うことを中心とした構成となっている。

また、音楽（一般）の説明で、教育芸術社「中学生の音楽」では、「心の歌」「歌い継ごう日本の歌」あるいは鑑賞としての伝統芸能や民謡ということで説明したが、教育芸術社「中学生の器楽」については、和楽器のコーナーにおいては、楽器の奏法に関するだけでなく、姿勢や礼儀などについての情報が掲載されていたり、楽器の鑑賞もより詳しく取り上げ、我が国の伝統的な音楽の技法の学習がより一層進むように配慮されている。また、和楽器を用いたアンサンブル曲も取り上げられ、我が国の伝統音楽の良さが主体的に味わえるように巻頭巻末にも資料を加えて充実させている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、教育芸術社「中学生の器楽」3票、教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」2票となり、音楽（器楽合奏）は、教育芸術社「中学生の器楽」を採択することとする。

#### 委員長

美術について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

美術の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書3者、開隆堂、光村図書、日本文教出版について、調査研究を行った。それら

の調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、開隆堂と日本文教出版の2者とした。

推薦理由としては、開隆堂「美術」では、美術1と美術2・3のA4版2分冊で、美術1の表紙には作家作品を鑑賞する中学生が掲載され、生徒に美術とのつながりを意識させる系統的な題材で構成されている。感性を豊かにするために、生徒の発達段階を考慮し、美術1では生徒作品を多数掲載して身近な美術を意識し、美術2・3では作家作品を多くして、美術の活動の広がりや深まりを指導できるよう工夫している。基礎的・基本的な技能の習得や材料・道具の扱い方などについて、美術1の巻末の「道具箱」という資料で分かりやすくまとめ、「共通事項」を意識した構成となっている。題材ごとに鑑賞から、発想・構想・表現へとつながるように構成し、最後に「ふりかえり」の欄を設けることで、題材のねらいに即した自己評価の活動ができるようになっている。鑑賞資料について、見開きの大型図版を使い、各々に問いかけというコーナーを用いて作品について話し合わせるなど、鑑賞の視点を通して言語活動の充実を図ろうとしている。

日本文教出版「美術」では、美術1、美術2・3の上と下の3分冊でA4のワイド版を採用し、生徒の発達の段階に応じた多様な学びが選択できる構成になっている。感性を豊かにするために、生徒が自己の成長を見つめ実感できるよう自分・他者・生活と社会・自然と環境といったつながりと広がりのある題材構成とし、基礎的・基本的な事項から美術文化の理解まで豊かな情操を養う工夫をしている。基礎的・基本的な技能の習得のために、題材ごとに参考作品やアイデアスケッチが数多く掲載され、併せて作者の言葉を紹介することで、生徒が発想したり構想したりする際の広がりや支援するように工夫している。題材を系統的に配列し、「POINT」というコーナーを設けたり、美術館の取組を紹介したりするなど、道徳や他教科、キャリア教育との関連を意識した構成となっている。鑑賞図版が無理なく配置され、原寸大の作品を取り入れたり、版画作品などは実物の和紙を採用したりするなど、より本物の質感に近付けることで生徒の感性に働きかける工夫がされている。

## 委員

日本の伝統文化についてはどのように記述されているか伺いたい。

## 選定委員

開隆堂「美術」では、美術1の「原寸ギャラリー」にて樹花鳥獣図屏風を取り上げ、美術2・3では「絵巻物の世界」や「原寸ギャラリー」にて作品を学び、「伝統の美に学ぶ」では演習にのっとり題材などを工夫している。

日本文教出版「美術」については、美術1では伝統の中の動物たち、美術2・3上では「墨が生み出す豊かな世界」「教科書美術館東へ西へ」「日本の美意識」、美術2・3下では「教科書美術館刻まれた祈り」「日本の世界文化遺産」など大きさやレイアウトを工夫し、各段階に応じて鑑賞を深められるようにしている。なお、

伝統的な表現の作品数としては、開隆堂「美術」では全体で75、日本文教出版「美術」では、128となっている

委員

生徒が興味をもてるような工夫をどのようにしているか伺いたい。

選定委員

生徒が興味・関心を高め主体的に学習に取り組む工夫としては、開隆堂「美術」では、生徒作品や生徒が楽しく学習する場面の図版を数多く取り入れることにより生徒の意欲を高め、技法紹介などを製作過程に取り入れることで主体的な学習を支援し、最後に振り返りのポイントをまとめることで主体的に学習するよう工夫している。

日本文教出版「美術」では、題材ごとの観点別のねらいに沿った鑑賞作品を多く配置している。また、絵に対する思いや意図を作者の言葉で丁寧に伝え、生徒の表現意欲を掻き立てるように工夫をするとともに「POINT」というコーナーで具体的な事実を示して主体的な製作活動を促している。

委員

基礎的・基本的な技法や用具の安全な使い方に関してはどのように取り扱っているか伺いたい。

選定委員

開隆堂「美術」では、各題材の中に技法紹介コーナー、巻末での「パレットコーナー」や「道具箱」というページを設けて基礎的な技能や用具の扱いについても分かりやすく紹介している。

日本文教出版「美術」では、各巻末に8ページから10ページの学習に役立つ資料があり、発達段階に応じた技法や用具の使い方について掲載をしている。

委員

写真やビデオ、コンピュータなど映像作品についてはどのように取り扱っているか伺いたい。

選定委員

開隆堂「美術」では、美術1で「動きのおもしろさを使って」という題材の中で2枚の写真を使い、コマ撮りやアニメーション、光の軌跡の写真を撮ることを紹介している。

日本文教出版「美術」では、美術2・3下において「ここでシャッターを切った理由」を取り上げたり、巻末の学習に役立つ資料の中でコンピュータグラフィックスやアニメーションについて紹介している

(教育委員による投票)

委員長

開票の結果、日本文教出版「美術」3票、開隆堂「美術」2票、他は0票となり、

美術は、日本文教出版「美術」を採択することとする。

#### 委員長

保健体育について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

保健体育の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書4者、東京書籍、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいについて、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と大日本図書の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい保健体育」では、保健編、体育編が学年に分けて配置され、各学年で学ぶべき学習内容や各学年間の学びの系統性が分かりやすい。各章は、「今日の学習」で課題を把握し、「やってみよう」で本文や資料から学び、「考えてみよう」で学んだ知識を活用し、「生かそう」で自分の生活に生かしたり、興味・関心に応じて更に調べたりする活動を行う等、基礎的・基本的な知識を習得し、それを活用する構成となっている。また学習内容を広げたり深めたりするために、「読み物」資料や「章末資料」をバランスよく配置している。更に生徒の身近な課題や今日的な課題を取り上げ、自主的に習得・探究に取り組みやすい工夫がされている。A B版のワイドな見開きとなっており、現在活躍するアスリートの写真やイラスト等も豊富で、生徒が興味・関心をもって取り組める紙面構成である。章末の「確認の問題」等では、知識の定着を確認し、その知識を活用して考え、更に学習を振り返って自己評価が行えるような工夫がされている。

大日本図書「新版 中学校保健体育」では、各章の課題を理解し、学習内容の見通しがもてるように、各章の最初に学習の流れが示されている。各章の学習の流れは、「今日の学習課題」で課題を把握させ、「考えよう」で身近なことから学習し、「本文・資料」で知識を習得し、「学習を生かして」で学習した内容を整理し、自分の生活に生かすという構成になっている。A B版より多少狭いがワイドな見開き構成で、1単位時間のページレイアウトにはゆとりがある。また各種資料も多く盛り込まれている。一つ一つの資料が大きめに掲載され、重要事項が太字で示されているので見やすい。現在活躍するアスリートの写真やイラスト等も豊富で、生徒が興味・関心をもって取り組める紙面構成になっている。「トピックス」「ミニ知識」「学習のまとめ」「学習の要点」等の章内の資料や章末資料では、生徒の意欲を向上させ、学習内容の理解と定着が図れるような工夫がされている。

#### 委員

中学生は思春期もあり、保健体育で学ぶべき点も多くあると思うが本質的な点についてどのようなものが取り上げられているか伺いたい。

#### 選定委員

思春期の内容については、両者ともページを割きながら思春期を学習するような

扱いになっている。本質的な点で言えば、例えば携帯電話や薬物の防止に対する問題についても凝縮して記載されている。

#### 委員

推薦した2者について、表やグラフ、資料以外の基礎的・基本的な知識を習得しやすくするために工夫している点があれば伺いたい。

#### 選定委員

基礎的・基本的な知識を習得させるために東京書籍「新編 新しい保健体育」では、各単元の終わりに「学習を振り返ろう」というページを設け、自己表現をさせながら単元で学んだポイントを確認するようにし、ところどころで学習を支援する工夫が見られる。

大日本図書「新版 中学校保健体育」では、重要事項が太字で強調されている外、本文の欄外にキーワードの欄を設け、改めて確認できるように配慮している。また、章末にも「学習のまとめ」として重要な言葉や学習の要点がまとめられており、生徒が振り返りながら知識を身に付けさせるようになっている。

#### 委員

本文の内容を裏付けたり、理解を助けたりする客観的なデータがどの程度掲載されているか確認したい。

#### 選定委員

それぞれさまざまな資料を各章で掲載している。

#### 委員

予防医学など今日的な課題について掲載されているか確認したい。

#### 選定委員

例えばガンについても多く掲載されており、エイズやその他、健康的に成長するために必要な内容については適切に掲載されている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい保健体育」5票、他は0票となり、保健体育は、東京書籍「新編 新しい保健体育」を採択することとする。

#### 委員長

技術・家庭（技術分野）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員

技術・家庭（技術分野）の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書3者、東京書籍、教育図書、開隆堂について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と開隆堂の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」では、基礎的・基本的な知識と技能を習得させるため、「目標」が明確化され、「やってみよう」「考えてみよう」という導入から、「まとめよう」「生活に生かそう」という一連の学習の流れが、分かりやすく見通しをもって学習が進められる構成であり、問題解決的な学習に取り組みやすくなっている。学習内容ごとのはじめに、小学校の学習内容の振り返りを設けている。生活と技術のかかわりについての理解を深めるため、身近な生活と関連付けた課題を解決させるための手立てが示され、実験・観察などの実践的・体験的な学習が豊富に取り入れられている。進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるため、「資料 技術の天びん」や「技術の匠」などを設け、学習の深化を図り、創意工夫して未来の生活を創造する力を育成する工夫がされている。安全への配慮として「安全」「衛生」のマークを用い、巻頭資料「実習を楽しく安全に進めよう！」等では、実習全体にかかる注意事項を掲載している。

開隆堂「技術・家庭（技術分野）」では、基礎的・基本的な知識や技術を習得させるため、「学習の目標」が明確化され、「調べてみよう」「考えてみよう」という導入から、「参考」という発展的な学習まで、主体的に学習に取り組めるような構成になっている。巻頭に「技術分野で学ぶこと」を設け、小学校で学習した内容の振り返りから中学校の技術分野の学習の見通しをもたせる工夫がある。生活と技術のかかわりについて理解させるために、具体的な課題を示し、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を重視し、そのために必要な基礎的・基本的な技術を習得させるための工夫がある。進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育てるため、「今も生きる先人の技術」や「日本の伝統技術」を取り上げ、知恵や技術のすばらしさを紹介し、創造する力を育成できるよう工夫されている。安全への配慮として「安全」のマークを用い、ガイダンスで「学習の進め方と作業の安全」として、作業の安全や心得、注意点等を掲載している。

## 委員

推薦した2者について、学習した内容を日常生活に生かす工夫としてどのように考え掲載されているか伺いたい。

## 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」では、各編の文末に学習のまとめとして「学習を振り返ろう」「学習したことを確かめよう」「生活に生かそう」があり、学習を確認し、実践につなげる工夫がされ、更に基礎技能のページが設けられ技術の習得が確認できるようになっている。

開隆堂「技術・家庭（技術分野）」では、学習の節目に学習を振り返るための「振り返り」が掲載されており、学習した内容を振り返りながら理解を確かめるた

めの「学習のまとめ」が掲載され、生徒が記入して確認したり、生活に生かしたりできるようにしている。

#### 委員

現在は情報化社会であるため情報を安全に活用するためのルールやマナーが大事であると思うが、この内容について推薦した2者ではどのように掲載されているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」では、便利で安全・安心な情報社会についてプラス面やマイナス面を示しながら事例を紹介している。また、インターネットや情報機器の特性を踏まえ情報モラルや知的財産権についての説明や事例を写真やイラストを使い、分かりやすく説明している。

開隆堂「技術・家庭（技術分野）」では、情報モラルについて課題を設定し、理解を深めたり、人権や個人情報について参考資料や事例を示して取り扱っている。

#### 委員

推薦している2者について、我が国の伝統や文化、ものづくりについてどのように取り扱っているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」では、技術分野のガイダンスの中に盛り込むとともに作品の製作等について写真を多く配置して説明している。また、伝統文化のマークを用いて我が国の伝統文化・ものづくりに支えられていることを示している。

開隆堂「技術・家庭（技術分野）」では、ものづくりの技術の進化について説明するとともに「豆知識」のマークで学習内容について知っておきたい内容を示している。また、伝統的な木材加工技術等について教科書のいたるところに説明が加えられている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」3票、開隆堂「技術・家庭（技術分野）」2票、他は0票となり、技術・家庭（技術分野）は、東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」を採択することとする。

#### 委員長

技術・家庭（家庭分野）について審議及び採択を行う。

#### 選定委員



技術・家庭（家庭分野）の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書3者、東京書籍、教育図書、開隆堂について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と開隆堂の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」では、基礎的・基本的な知識と技術を習得させるために、「目標」が明確化され、「やってみよう」「考えてみよう」という導入から「まとめよう」

「生活に生かそう」というまとめまでの学習の流れが分かりやすい構成になっている。発達段階等に考慮して、生徒にとって親しみやすい「食生活」をはじめに配列し、小学校の学習内容との関連をマークで示している。生活と技術のかかわりについて理解させるために、豊富な資料を掲載し、さまざまな地域での伝統・文化などを取り上げ、多様な活動例を示し、興味・関心を高め、主体的な学習を促す工夫がされている。進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てるため、「やってみよう」に具体的な事例を示し「私のオリジナル」など、生徒の生活に合わせた工夫のヒントが示されている。安全への配慮として「安全」「衛生」「マナー」のマークを用い、「実習を楽しく安全に進めよう！」では、「手の洗い方」等を掲載している。

開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」では、基礎的・基本的な知識や技術を習得できるように、「学習の目標」が明確化され、「考えてみよう」「話し合ってみよう」という導入から、「参考」という発展的な学習まで、主体的に学習に取り組んでいける構成になっている。巻頭に「家庭分野の学習をはじめよう」を設け、小学校で学習した内容の振り返りから中学校の家庭分野の見通しをもたせる工夫がある。生活と技術のかかわりについて理解を深めるために、生徒が自立して生活を営む上で必要である課題を提示し、実習や製作などの実践的・体験的な学習活動が豊富に設定されている。進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を育てるために、衣食住にかかわる伝統・文化、知恵や技術のすばらしさを紹介し、創造する力を育成できるよう工夫されている。安全への配慮として、「安全」「衛生」「防災」のマークを用い、「安全と防災」として巻末に掲載している。

## 委員

推薦した2者について、食育を推進する観点から、栄養と献立に関する内容についてどのように掲載しているか伺いたい。

## 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」では、教科書の最初の1編が私たちの食生活から始まる。生活に密着した食生活を最初に掲載することにより興味・関心をもたせるような構成になっている。また、食生活の課題、中学生に必要な栄養について考えさせるために直接書き込めるようになっ

ていたり、食品の実物大の写真や1食に必要な分量を掲載したりするなどの工夫が見られる。

開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」では、「食事の内容について考える」や著名人のインタビュー、研究者の説明を掲載し、具体的に理解が進むようになっている。また、食品の成分を実験で確かめたり、実物大の食品の写真を折り込みページで入れ込んだりすることで興味がわくように工夫がされている。

#### 委員

推薦した2者について、地域との関わりや家庭での役割についてどのように掲載されているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」では、「中学生としての自立を考えよう」「家庭生活と地域との関わりを考えよう」に掲載されており、例として東日本大震災を取り上げたり、中学生が自分でできることを考えたりするように例を挙げて工夫されている。

開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」では、「家庭の仕事を支える社会」の中で仕事の例や「男女共同参画社会をめざして」の資料を掲載し、家庭の内外で支えられていることを理解できるように工夫している。

#### 委員

身近な消費生活と環境について、教科書への掲載の仕方はどのようになっているか確認したい。

#### 選定委員

東京書籍「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」では、持続可能な社会の構築など社会の変化に対応して主体的に消費者としての態度を育成する視点から、各題材での扱いのほか衣食住などに関係する内容について「環境マーク」を配置し、具体的な内容を示している。

開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」では、持続可能な社会に向かって、社会での取組や主体的に生きる消費者としての態度を育成する視点から、各題材での扱いとともに「消費・環境マーク」を配置し具体的な内容として示している。

#### 委員

「消費生活と環境について」で自立に必要な学習を行っていくわけだが、その中で基本的な知識として、例えば納税などの内容も大事であると思うが、推薦した2者についてどのような工夫をしているか伺いたい。

#### 選定委員

どちらの教科書も消費生活との関わりの中で消費者の権利や責任という中に納税等の内容が掲載されている。

(教育委員による投票)

## 委員長

開票の結果、開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」5票、他は0票となり、技術・家庭（家庭分野）は、開隆堂「技術・家庭（家庭分野）」を採択することとする。

## 委員長

英語について審議及び採択を行う。

## 選定委員

英語の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書6者、東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と開隆堂の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、3学年を通して、各課（Unit）で語彙・文法の習得、「Daily Scene」で場面別コミュニケーション活動による活用を図り、「Presentation」で自己表現活動という3部構成により、4技能を総合的に養う構成となっている。1学年では、文法、語彙、題材等を総合的に、2、3学年では、文法、基本文を学習し、対話文の中での理解を図り、「Read and Think」で「読む」「書く」を中心としたコミュニケーション活動、「Activity」で技能を統合したまとめの活動を行う流れとなっている。各学年の「まとめと練習」「学び方コーナー」では、文法の確認問題やQ&Aがあり自主学習のポイントが示されている。各課での題材の他、読み物教材「Let's Read」、更に2、3年には「名作鑑賞」という教材も用意されている。小学校との連携については、入門期に「Hi, English!」で小学校外国語活動の復習、「Unit 0」で文字の導入（アルファベット）と2つの課を設定し、スムーズな連携への配慮がされている。

開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、3学年を通して、各課（PROGRAM）に4技能の活動を配置し、コミュニケーション能力の基礎を繰り返し、そして総合的に養う構成となっている。各課では、文型・文法事項を使用場面が分かりやすい対話形式で示し、活動の中で習得させる工夫がされている。3つの課の終わりには、各課で学習した基礎的な技能を発展的、総合的に活用する「My Project」を設け、更に学習の進行に合わせて日常的によく使われる表現を、各技能あるいは技能を統合して伸ばす活動「POWER - UP」も設定し、基礎の定着を目指している。各課での題材の他、Readingに重点を置いた課が複数配置され、加えて補充用読み物教材も用意され、取り組みやすい。巻末の「英語で「できるようになったこと」リスト」で、身に付けたいコミュニケーション能力の目標が明確にされ、学習の理解度や定着度が確認できるよう

に工夫されている。1学年に小学校外国語活動を復習する課「Let's Start」、目次に小学校でふれた表現を青字で示す等、小学校外国語活動との円滑な接続への配慮がされている。

#### 委員

推薦した2者について大きな違いは何か伺いたい。

#### 選定委員

両者ともに目指すものは同様である。大きな違いについては、それぞれの課で基礎的な知識の定着を図る流れが違っている。東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、見開きの構成になっており左側に基本文を含む本文を示し、本文の文中で基本文に触れた上で右側上部に習得すべき基本文を示し、「聞く」「話す」「読む」「書く」という基礎練習を図り定着できるようになっており、課の終わりに「Activity」で技能を統合したまとめの活動を行う流れになっている。

開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」でも、見開きの構成になっており、左側上部に基本文を示し、学ぶべき基本文の使用場面を説明し、その内容を聞いたり、話したり、コミュニケーション活動しながら確認・定着を図り、基本文を含む本文を右側に示している。

#### 委員

英語を好きにさせる観点からすると、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」という活動のどこに力を入れているかは、教科書によって異なるのか伺いたい。

#### 選定委員

基本的には、例えば「POWER-UP」や「Daily Scene」など領域に重点を置いた活動をたくさん取り入れている。課ごとにどのような活動領域に重点を置くかは各者で異なっているが、全体的なバランスについては4技能ともに調和を取りながら配置している構成になっている。

#### 委員

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるが、オリンピックの開催を視野に入れているような題材があるか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、オリンピック招致のプレゼンテーションを行った佐藤真海さんのスピーチの内容を読み物として3年生の教科書に掲載している。

開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、3学年の1学期には「My Project」の「あの人にインタビューしよう」の中でインタビューの対象を佐藤真海さんとしている。

#### 委員

推薦した2者について小学校における外国語活動とのかかわりについてどのような工夫がされているか伺いたい。

#### 選定委員

東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、最初に「Hi, English!」で小学校の外国語活動を復習する課を設定し、「Unit 0」でアルファベットを扱いながら文字でのつながりを復習する課を導入することにより「書く」力を習得できるようにしている。

開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」では、最初に「Let's Start」という小学校外国語活動を復習する課を設定し、次の課である「PROGRAM 1」でアルファベットを扱いながら文字の導入を図っている。両者ともに小学校での外国語活動を念頭に入れながら作成されたものであると思う。

#### 委員

入門期の指導については先ほど説明があったが、中学校から高校への連携について配慮されている点はあるか伺いたい。

#### 選定委員

中学校から高校への連携について、開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」におけるリーディングでは、読んだ後の質問が英語になっている箇所がある。

東京書籍「NEW HORIZON English Course」では、発展的な読み物として長文の読み物が掲載され「名作鑑賞」という原文が入っている内容が掲載されている。

(教育委員による投票)

#### 委員長

開票の結果、開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」3票、東京書籍「NEW HORIZON English Course」2票、他は0票となり、英語は、開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE」を採択することとする。

## 10 その他

- (1) 議事に先立ち委員長から、議案第20号の関係者として、中学校用教科用図書選定委員会委員である川越第一中学校校長、野田中学校校長、城南中学校校長、寺尾中学校校長、福原中学校校長の出席について各委員が承認し出席が認められた。
- (2) 会議録署名委員として、長谷川委員長職務代理者、長井委員が指名された。
- (3) 会議について10名の傍聴があった。